

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492000201	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターごてん		
所在地	(〒254-0061)		
	神奈川県平塚市御殿2丁目19-9		
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名
		通い定員	15名
		宿泊定員	6名
		定員計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成27年3月5日	評価結果 市町村受理日	平成27年6月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>明るく元気で思いやりのあるスタッフが、お客様を笑顔で出迎え、お客様の日々の体調や些細な状態の変化に気付き、ひとりひとりの生活背景やニーズを考えながらチームケアを行っている。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年3月31日	評価機関 評価決定日	平成27年6月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 ニチイケアセンターごてんは、JR平塚駅北口から伊勢原駅南口行きバスで10分、最寄のバス停から徒歩5分ほどの場所にある。また伊勢原駅南口からバスを利用しても、23分ほどでアクセスできる。周辺は戸建てが並ぶ住宅街であるが、近くにスーパーマーケット、ドラッグストア、コンビニエンスストアがあり利便性に優れている。鉄筋3階建て建物の1階が当事業所で、2、3階部分は同法人が運営するグループホームとなっている。フロア全体に床暖房が施され、テラスに続くリビングダイニングの窓は掃きだしになっており、自然光を十分に取り入れている。左右に泊まりサービス用の完全個室6部屋が配された廊下は、車いす同士がゆったりすれ違える広さが確保されている。この廊下に10mのラインを引き事業所内散歩コースと称し、歩行訓練に使用している。また、個浴室とは別に横になった姿勢で入浴可能な機械浴室があり、ハード面が充実している。</p> <p>【理念の実現】 「その人らしい生活の実現と生きがいを見出し、人としての喜びそしてやわらぎを提供します」を事業所の理念として掲げ、管理者及び職員は、利用者の思いに寄り添い、明るい笑顔で支援を行っている。職員は日々の生活や会話の中で、利用者の意向を見出し、利用者の喜ぶレクリエーションや外出行事などに結び付けている。管理者は、何気なく発せられる利用者の言葉や表情の変化も、意思表示として見逃さないように、職員を指導している。</p> <p>【事業所を地域に知ってもらう取り組み】 開設より1年半を経過したが、地域住民とのさらなる交流の場作りに取り組んでいる。事業所主催の納涼祭やニチイ祭りの際は、近隣の店舗にポスターの掲示を依頼し、地域住民の参加を呼びかけている。また前回のニチイ祭りでは「認知症ケアのミニ講座」を開催し、認知症と事業所を地域住民に知ってもらう試みをした。徐々にではあるが、散歩の折などに、利用者、職員が地域住民と気楽に挨拶を交わす関係を築いてきている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンターごてん
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・フロアに掲示している。	開設メンバーが策定した「事業所のサービスのあり方」を理念とし、職員は利用者の地域生活の継続支援を図っている。管理者は、五感を研ぎ澄まして利用者の思いを汲み取るよう、職員を指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーや米屋は頻繁に活用している。イベントを実施する際には、近隣のお店に広告を掲示して頂いたり、参加を促している。	自治会に加入し、神輿見学や市の地域清掃などに参加している。納涼祭やニチイ祭りを催し地域住民を招待して、軽食やおやつなどを振舞っている。体操指導員、南京玉簾、フラダンス、よさこい舞踊などのボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りの一環で認知症ケアについてのミニ講座を開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催している。	併設のグループホームと合同で、家族代表、地域包括支援センター職員、土地オーナー参加の下、2ヶ月に1度開催している。事業所の運営報告、利用者の状況報告、質疑応答などを行っている。地域包括支援センター職員からは、困難事例への対応などの情報を得ている。	運営推進会議の構成メンバーとして、「地域の代表」「知見を有する者」などの参加を引き続き呼びかけることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に毎月来設頂いている。定期的にケアプランの評価も受けている。サービス提供に関する質問等も随時実施している。	市の介護保険課とは、介護計画書の作成指導や事故報告などを通じて連携している。また介護相談員を月1回受け入れている。市の小規模多機能型居宅介護事業者連絡会に加入し、会議、研修に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	食堂フロアと玄関の間の扉は施錠しているが、玄関は施錠していない。通りに面して玄関が設置されている為、防犯対策として行っている。	法人マニュアルを共有し、身体拘束をしないケアを実践している。定期的に研修を実施している。リビングダイニングの出入り口は防犯対策として施錠しているが、玄関は日中施錠していない。出たいそぶりの利用者には職員が付き添い外に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルが常時閲覧出来る場所にあり、身体拘束・虐待の研修も行っている。スタッフの言葉遣いや対応に注意を払いながら業務にあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方が居ます。また、後見人制度が必要だと思われる方には、時期を見ながらお話をする場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の面談やアセスメントの段階からお客様に応じた説明は随時行っている。また、日頃より気軽に声を掛けて頂ける環境づくりに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1度顧客満足度調査を実施し、改善に努めている。	訪問サービスや通いの送迎、ケアマネジャーの定期訪問時に、家族の意見、要望を聴取している。電話やメールで連絡を取ることもある。法人が年1回満足度調査を実施し事業所に結果をフィードバックしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングによる意見交換の場と、定期的に個別での面談を実施し、全体で考える事を意識し取り組んでいる。	月2回の業務ミーティングなどで、要望、意見を聞き業務に反映している。昨年職員面談を実施し、今後も年1回のペースで継続する予定である。レクリエーションの内容などは、職員主導で決定し実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり職員のスキルアップが定期的に行えるようになっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回事業所内での研修を行い、自社内での研修も定期的で開催されている。外部の研修にも、情報共有をして参加しているスタッフもいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市内の小規模多機能連絡会に参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いはもとより、紹介先の病院や包括からの情報も大事にし、不安などを最小限にサービスを開始していけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困り事を聞いた上で、専門的な立場である事を意識しながら、相談・助言を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人を取り巻く環境全体を見た上で、必要なサービスを選定し案内をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援と共同作業を意識し取り組んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	送迎等でのコミュニケーションの場を大事にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援計画にも反映していけるよう意識して行っている。	通いなれた病院、馴染みの店などとの関係が継続できるよう支援している。また事業所職員、他の利用者と新たな馴染みの関係が築けるよう取り組んでいる。編み物、折り紙など趣味の継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席を考慮したり、個別でスタッフが対応したり工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気軽に連絡してもらえるように、声を掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	視線を合わせ、潜在化している思いを感じ取る事が出来るよう、スタッフと共に意識して取り組んでいる。	職員は日々の利用者との係わりの中で、思いや意向を把握し、「趣味の継続」「買物」「利用者が好むレクリエーション」などの具体的サービスに結び付けている。意向を表すことが困難な利用者については、表情、しぐさに現れるシグナルを見逃さないように、管理者は職員を指導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントと、日々の関わりの中で様々な情報を引き出し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを重視し、必要な支援を行っていきけるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居宅のモニタリング（1回/月）・小規模モニタリング（目標期間）を行い、スタッフと意見交換をしながら、作成している。	月1度のモニタリングを実施し、6ヶ月ごとに介護計画書の見直しを行っている。サービス担当者会議は、利用者、家族のほか福祉用具貸与などの在宅サービス担当者もまじえ実施している。またケアマネジャーのほかにも職員も参加している。主治医の指示、看護師の意見も取り入れた介護計画書としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日報・介護記録・お客様ノートを活用し、情報共有を行っている。日頃から話し合いの場は多く持たれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報共有を円滑にし、通い・訪問・宿泊も状況に応じて柔軟に対応出来るように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り、近隣住民や地域の資源に理解と協力を頂けるよう働きかけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて、受診先の助言をしたり、受診に同行し、医療との連携も大切にしている。	利用者個々の主治医が自宅に往診する時は、職員が立ち会っている。精神科への通院は必ず職員が同行する。家族が通院介助する場合は、事前に医師への相談内容などをアドバイスしている。また必要な場合は家族に文書を託して、医師と情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個別で必要に応じて実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	予後予測と、MSWや病棟NSと情報共有を行いながら密な連携を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を確認する時期を見極め、本人・家族が現状を受容し、決断をしていけるように、各サービスとの連携を大切にしながら支援している。	契約時に利用者と家族に、重度化した場合に事業所が対応し得る範囲について説明し、情報を共有している。重度化した場合は関係者と段階的に話し合い、適切な医療、介護サービスを選択できるよう協力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時、設定を変えて実施している。	年2回の防災訓練を行っている。内1回は消防署の立会いがある。また、夜間想定も実施している。非常食、飲料水の備蓄がある。簡易トイレ、ラジオ、懐中電灯なども準備されている。	事業所防災訓練への地域住民の協力を得ると共に、地域の防災訓練への参加などを通じて、地域との協力体制を築いて行くことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた寄り添ったかわりを心掛けている。	生活歴や性格に応じた声かけを心がけている。管理者は職員の不適切な声かけや対応などは、その都度注意している。入浴の同性介助の希望にはできる限り応じている。接遇研修を定期に実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間をかけて、表出して頂けるよう意識して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々利用される方が違う為、その場その場で、利用者の意見を聞き、全体を把握しながらも、個々の状況にも合わせて臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や身だしなみに気付き、声を掛けることが出来ている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューには季節の食材、リクエスト等を組み込んでいる。個々の能力を見極めながら、一緒に作業が出来るよう心掛けている。	食品部門の関連法人からの調理済み冷凍食品と手づくりメニューを組み合わせ提供している。ひな祭りのちらし寿司や節分の恵方巻きなどの行事食は、職員と利用者が手づくりしている。月1度お楽しみ会食会を実施し、鍋物やお好み焼きなどを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況・現病・生活状況等を把握して対応している。自宅での様子も常に情報収集するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。義歯の不具合、自歯の欠損や状態などの観察も意識して行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の確認を行い記録している。排便コントロールや排尿回数や間隔など、個別の課題には、情報共有を行い経過を見ながら支援をしている。	排泄チェック表でパターンを把握して、トイレ誘導を行っている。泊まりの利用者もトイレ誘導を基本としているが、状況により睡眠を優先する場合もある。排便コントロールが必要な利用者は、家族と協力して実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保、適度な運動を心がけ、ご家族との情報共有も欠かさず実施している。必要に応じて、医療機関への相談も促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々のペースで入浴が出来るよう、時間にゆとりを持って実施している。月に1回入浴剤を使用したイベントも実施している。	入浴は原則として週2回実施している。また時間は利用者の希望に沿い、午前午後共に対応している。入浴剤を利用者が選んで入浴するイベントを月1回実施している。脱衣場はカーテンで仕切るなど細かい配慮がされている。ヒートショック対策にも万全を期している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を考慮し、心身の負担にならないよう、午睡を促したり、夜間の安眠を促す為に日中の活動量を意識したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルで内服薬の情報は確認する事が出来る。内服薬の変更等がある場合は、ご家族から連絡を受け、周知徹底と経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や慣れ親しんでいた事等を取り入れ、集団や個別で実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	意向を確認しながら、買い物や散歩を実施している。	車いすの利用者も含め、天候が良い日は、食材の買出しや散歩に出かけている。戸外へ出ることが難しい利用者は、テラスで日光浴をするなど、外気に触れる機会をつくらせている。花見などの外出イベントも楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理の金銭に関しては、ご家族と共通認識のもと行っている。また、お預かりしている金銭に関しては、本人の希望する物や生活に必要な物を購入している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話を利用する事が出来るようにしている。そのような環境を提供する為にも、ご家族のご理解・ご協力も得られるよう事前にお話をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心掛け、薬品の取り扱いにも注意し、安全にご利用頂ける様留意している。季節ごとの制作にも積極的に取り組んでいる。	リビングダイニングや廊下の壁には利用者と職員が共同で作成した季節感ある作品や行事の写真などが飾られている。廊下の手すりは倉庫の扉などにも施され、安全な歩行を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	通い・宿泊と区別をせず、部屋を自由に使用してもらい、思い思いも時間が過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活サイクルや行動パターンを把握し随時臨機応変に対応している。	泊りサービスの部屋は、完全個室の和室が1室とフローリング仕様の5室が準備されている。泊まりの利用者は、人形、家族の写真、安眠用のアイマスクなどを持ち込み、居心地よく過ごせる空間としている。自宅で使う物と同じマットレスを事業所に置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントを重視し、変化を加える前には十分に検討し対応するように心掛けている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンターごてん

作成日 H27年 6月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策において、近隣住民の方との訓練が出来ていない。	防災訓練時に、近隣の方のにも参加していただく。	年2回の防災訓練前に近隣の方に、訓練に参加をしていただけるように周知を行っていく。	2016/3/31
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。